



Epreuve vidéo
JAPONAIS

Concours ECRICOME PREPA 2023

Verbatims des vidéos
01 - 03

Mentions légales

Les concours organisés par ECRICOME© sont des marques déposées. Tous les sujets, corrigés et verbatim sont la propriété exclusive d'ECRICOME.

Reproduction interdite en dehors du site internet d'ECRICOME©

Tous droits réservés.

Toutes les vidéos sont sourcées (voir document en ligne) au titre des droits d'auteur. Utilisation à des fins pédagogiques, accord du 4 décembre 2009 conclu entre la PROCIREP et le Ministère de l'Éducation Nationale.

Exemple 1

いよいよ冬本番を迎える中、政府が今日から実施を要請しているのが、

「節電のご協力をお願いしたいと思います。重ね着をして、少し温度を低めにするとか、あるいは使っていない部屋の消灯をするとかですね、こちらにありますけれども、ぜひこうした取り組みを皆さん方をお願いをしたいというふうに思います。」

全国の企業や家庭に来年3月までの節電を要請。冬場としては7年ぶりとなります。都内の雑貨店では、防寒グッズおよそ800点がずらり。中でも売れ行き好調なのが、

「お客様は電気代の高騰をすごく気にしていらっしゃる印象があるので、電気を使わずに温まれるような商品が大変人気です。11月なんですけれども、前年比約150パーセントほど伸長しております。」

高騰する電気代を補うため、節約できるあったかグッズが去年の1.5倍の勢いで売れているというのです。その中でもお勧めの商品を教えてください、

「これは何ですか。」

「こちらは着る毛布という名前で、文字通り、来ていただく毛布でございます。」

毛布の暖かさと洋服のように動き回れる快適さを兼ねた着る毛布。袖が落ちてこない作りになっていて、炊事や洗濯の際にも使い勝手がいいと、人気の商品だといいます。早速アナウンサーも着てみると、「膝のこの辺りから肩まで暖かい。腕のあたりもすごくホカホカしているのを今感じます。触って気づきましたけど、ものすごく肌触りいいです。」

さらに10月以降、ロフト全店で4万足以上売り上げるヒット商品になっているのが、まるでこたつソックスです。

「こちら足元、足首の少し上にあります三陰交というツボを温熱刺激することによって、体全体が温まれるような商品となっております。」

くるぶしの辺りには温熱素材が使われていて、足全体を温めてくれる構造になっているといえます。

「お客様にあった節電アイテムを見つけていただいて、気軽に暖かくお過ごしただければと思います。」

Exemple 2

テレビ朝日は未来をここからプロジェクトの一環で、気候変動問題など SDG's 企画をお伝えします。今日のテーマは気候変動に具体的な対策を、です。

一年前も取り上げた、通常のものとは比べて8割ほど CO2 を削減できる航空燃料 saf。天ぷら油など、使用済みの食用油から製造する取り組みが始まりました。

オフィス街のカフェの厨房にやってきました。今、まさに使われているこの油が、このあと航空燃料として使われることになります。フライドポテトなど、調理に使われた後の油は、廃食油として回収されます。廃食油は航空燃料と類似していて、燃料効率性が高いとされています。

「こちらに停まっているトラック、何と使い終わった油を回収するトラックで、今、うしろに大量に積まれた状態です。」

廃食油はこれまで家畜の飼料などとして使われ、国内で有効活用されていませんでした。鉄道などとは比べて CO2 の排出量が多い航空機の利用は飛び恥との批判もあります。ただ、国内には大規模に SAF を製造するノウハウがありません。

「今、回収された廃食油が工場に到着しました。」

こちらの京都の工場は廃食油を集め、バイオディーゼル燃料を作りだしています。

「食塩であったり、しょうゆであったり、調味料を除去してやる。」

この企業は植物由来の廃食油から燃料を作るという仕組みを SAF の製造に応用したいと考えています。工場で製造されたバイオディーゼルを燃料に、東京丸の内ではトラックが走っています。

「実際に乗ってみます。少し音がしますけれど、非常にうるさいという感じではないですね。」

この企業は、他のプラント企業などと共に、丸の内で廃食油を集め SAF にする工場を 2024 年度にも稼働させる予定です。

「廃食用油が SAF になるという、いわばドラえもんみたいな世界だと思うんですけど。」

廃食油を国内で循環させ SAF を製造するという、この国内初の取り組みは 2024 年度から本格化します。

Exemple 3

日本人の海外流出が徐々に進んでいます。外国の永住権を取得する日本人が、過去最多を記録しました。なぜ日本を離れるのか、その背景を取材しました。

星空に広がるオーロラ。青い水面に映る山並み。美しい自然が広がる北欧の国、アイスランドです。現地の旅行会社で働く渡辺さんは、この自然などに魅せられ、9年前、日本から移住し、永住権を取得したといいます。

「そもそもアイスランドが好きで、アイスランドに関する仕事をしていたので。アイスランドはここ10年以上、世界で1位の男女格差のない国なんですね。管理職も女性の方が多いですね。とても働きやすく、やらせてもらっています。」

働きやすさの他にも。

「日本を歩いていると、何かいつも消費をしないといけないようなプレッシャーを感じていたんですけど、アイスランドにいますと、もともと選択肢自体が少ないので、そういうところから自由になれたリラックス感があります。」

渡辺さんのように外国の永住権を取得する人が、年々増えています。外務省の統計によりますと、去年、日本人の海外永住者は2万人ほど増え、およそ55万7千人にのぼり、過去最高となりました。地域別では北米や、西ヨーロッパ、オーストラリアなどが人気で、男女比では女性がおよそ62パーセントと、多くなっています。海外永住者の増加の背景について、専門家は、

「物価が徐々に上がってきているにもかかわらず、賃金が一向に上がらないというようなところが、かなり大きいと思います。社会の寛容性、包摂性っていいですかね、私もこの国であれば、この地域であれば、居場所があるという、そういった実感が持てるといった、そういう要素も海外に行かれる方が増えている一つの理由じゃないか。」

一方で渡辺さんは、実際にその国に住んでみなければわからない面もあると話しています。

「風邪ぐらいだと、まず病院に入れてもらえないというか、寝てろって言われるんですね。海外が最高でもないし、日本が最高でもないし、どこも絶対最高じゃないんですけども、生きやすいというか、呼吸がしやすい場所にいると、我慢しなきゃいけないことを頑張れる力が増えるんじゃないかなと思います。」